

音楽学部

音楽文化創造学科教授 舟橋 三十子

1. 研究活動

a 演奏会・展覧会・競技会等の名称・著書・論文・作品等の名称（項目ごとに記入する）	b 発表または発行の年月日	c 演奏会・展覧会の会場・主催等または論文等の発行所・発表雑誌等の名称	d 発表・展示・作品等の内容等・論文概要等（共著の場合のみ編者・著者名を記入）
<p>「音楽家への第一歩」 日本語版 入門コース第2巻A ジャン・ピエール・クーロ 著 舟橋三十子訳</p>	<p>2010. 4</p>	<p>パリ・A.Leduc 社 Editions Musicales A.Leduc 175 Rue Saint-Honoré Paris FRANCE 監修 細野孝興 (東京藝術大学名誉教授)</p>	<p>フランスの新しいソルフェージュの考え方 “フォルマシオン・ミュージカル”の紹介を中心にしたテキスト。子供の歌、子守歌等、親しみやすい小品を対象にしている。</p> <p>第1課 Moderato 第2課 長2度と短2度 第3課 長3度と短3度 音程の度数、種類、構成</p> <p>第4課 ♩のリズム Allegro 速度記号</p> <p>第5課 8分休符 3/8 拍子</p> <p>第6課 ♪のリズム crescendo と decrescendo</p> <p>第7課 #シャープ PPP から fff までのデユナーミク</p> <p>第8課 6/8 拍子 第9課 ♭フラット ＜と＞の記号</p> <p>第10課 6/8 拍子での ♩のリズム Andante</p>
<p>「クラシックの聴き方入門」 -名曲のスタイル分析 全80曲- 舟橋三十子 著</p>	<p>2010. 4</p>	<p>株式会社ヤマハミュージックメディア</p>	<p>器楽からオペラまで幅広いジャンルの名曲80曲のスタイル（楽式）を解説した本。専門用語をなるべく使わず、譜例を用いながら易しく説明してある。 (作曲家池辺晋一郎氏推薦)</p> <p>序 章 動機（モティーフ）</p> <p>第1章 2部形式・複合2部形式 第2章 3部形式・複合3部形式 第3章 変奏曲形式 第4章 ロンド形式 第5章 ソナタ形式 第6章 ロンド・ソナタ形式 第7章 カノンとフーガ 第8章 オペラ 第9章 宗教曲 第10章 いろいろな曲種 第11章 クラシック音楽のジャンル</p>
<p>第9回ローランド ファンタスティック・ピアノコンクール 課題曲部門 第2次予選審査員</p>	<p>2010. 12. 11 ～12</p>	<p>埼玉県志木市民会館パルシティ</p>	<p>第1次予選（メディア審査）に合格した参加者の、ステージ演奏を審査した。 11日：中高生および一般の部 12日：小学生の部</p>

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 ■有 □無

f 教育内容・方法の工夫および作成した教材・資料等		g その他教育活動上特筆すべき事項
授業科目 ソルフェージュ I、II		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
一般的な聴音、新曲だけでなく、分析、理論、移調、リズム、音程練習等を加えてアプローチしている。また、様々な時代や作曲家、国の名曲をテキストに用い、幅広い視点から音楽をとらえ、学生が何のためにソルフェージュを学ぶのか、その目的をはっきりさせて、授業を学ぶモチベーションを高めるようにしている。	フランスの教本（フォルマシオン・ミュージカル）の日本語版（拙訳）を用い、新しい考え方に基づいた方法を実施している。また教材として用いた作品のCD、DVDを使用し、譜面からだけでなく、視覚的・聴覚的な要素も視野にいれた方法での楽曲へのアプローチを試みるようにしている。	
授業科目 楽式論（楽曲分析を含む）		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
よく知られたピアノ作品から始まり、最終的には、古典派、ロマン派、近代の作品までのアナリゼを実施している。予習に重点を置き、自分の力で分析できるようにさせている。過去に学んだ和声学の知識を生かし、最終的にはポリフォニックな音楽にも踏み込んでアナリゼできるようにしている。	基本的な和声の復習から始まり、小品だけでなく、最終的には簡単な室内楽の楽曲の分析ができるように、パソコンのソフト（フィナーレ）で作成した独自の譜面を参考資料として用いるようにしている。またDVD等のメディアを用い、オリジナルの編成での楽曲にも親しむように工夫している。	
授業科目 キーボード・ハーモニー		
◆前期 ◆後期		
工夫の概要	教材・資料等の概要	
コードネームや和音記号を用いた伴奏付けや、旋律に合った対旋律（オブリガート）を付けるなど、音楽の教師を目指すに当たって、教育の現場で実際に役に立つ学習を行っている。よく知られた旋律に正しいハーモニーを付けるなど、和声学で学んだ机上の学問を実践で役立たせるように工夫している。	毎回の授業時に、CD、MD、DVD等の機器を使用して、1つの楽曲を様々な編成で演奏したものを模範として聞かせている。古今東西の名曲を教材として使用することは、幅広い知識を必要とされる音楽教育の面からも欠くべからざることなので、幅広いジャンルの曲を聞かせるように努めている。	

3. 学会等および社会における主な活動

h 学会等の名称	i 活動期間	j 活動概要その他
(社) 日本作曲家協議会	1978. 4～現在に至る	
ポピュラー音楽学会	2000. 4～現在に至る	
文化経済学会	2000. 4～現在に至る	
日本ソルフェージュ研究協議会	2009. 4～現在に至る	